

つながり・支えあおう 地域福祉のすゝめ



■日 時：令和8年10月27日（火）
13時30分～16時00分（開場 13時00分）

■会 場：中区役所ホール

主催：名古屋市・社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

目 次

◆プログラム	・・・・・・・・・・・・・・・・	P.2
◆基調講演資料	・・・・・・・・・・・・・・・・	P.4
◆実践報告資料		
西区大野木学区地域福祉推進協議会	・・・・・・・・・・・・・・・・	P.21
緑区緑学区地域福祉推進協議会	・・・・・・・・・・・・・・・・	P.29
守山区西部いきいき支援センター	・・・・・・・・・・・・・・・・	P.37
◆「地域支えあい事業」実践学区への感謝状贈呈のお知らせ	・・・・・・	P.47
◆開催概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	P.48

プログラム

13 : 30 開会あいさつ

13 : 40 【基調講演】

「多様なつながりが生む孤独・孤立防止への取り組み」

講師：金城学院大学 デザイン工学部 情報デザイン学科

准教授 橋川 健祐氏

14 : 40 【実践報告】

報告団体

西区大野木学区地域福祉推進協議会

緑区緑学区地域福祉推進協議会

守山区西部いきいき支援センター

コーディネーター

金城学院大学 デザイン工学部 情報デザイン学科

准教授 橋川 健祐氏

15 : 55 【事務説明】

16 : 00 閉会

※本事業は、地域福祉推進協議会研修を兼ねて開催しております。

「誰も取り残さないまちへ～多様なつながりで支える地域福祉～」

基調講演

金城学院大学 デザイン工学部 情報デザイン学科 准教授 橋川 健祐氏

実践報告

[報告1] 地域支えあい活動 実践者

西区大野木学区地域福祉推進協議会 会長 大塚 春行氏

副会長 柴田 智一氏

[報告2] ふれあい・いきいきサロン活動 実践者

緑区緑学区地域福祉推進協議会 会長 伊藤 哲男氏

[報告3] 孤独・孤立防止につながる支援 実践者

守山区西部いきいき支援センター

社会福祉士 中崎 未来子氏

社会福祉士 伊藤 友美氏

[コーディネーター]

金城学院大学 デザイン工学部 情報デザイン学科 准教授 橋川 健祐氏

講師・コーディネーター/Profile

金城学院大学 デザイン工学部 情報デザイン学科 准教授 橋川 健祐氏

博士（社会福祉学）・社会福祉士。

研究テーマは、過疎地域再生、地域循環型福祉経済、コミュニティワーク、資源開発など。

現在、第5次東区地域福祉活動計画策定委員、長久手市障がい者自立支援協議会「就労支援モデル開発プロジェクト」アドバイザー、愛知県社会福祉協議会「CSWの諸課題に関する検討会議委員」などを務めている。

【つながり・支えあおう 地域福祉のすゝめ】

多様なつながりが生む 孤独・孤立防止への取り組み

2026年10月27日（火）中区役所ホール
金城学院大学 デザイン工学部 情報デザイン学科
橋川 健祐

自己紹介

<略 歴> 2007年 社会福祉法人三重県社会福祉協議会
2012年 関西学院大学人間福祉学部実習助手（2016～助教）
2018年 金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科
2026年 金城学院大学デザイン工学部情報デザイン学科

<専 門> 過疎地域再生、地域循環型福祉経済、地域福祉、コミュニティワーク、資源開発

<資格等> 社会福祉士、博士（社会福祉学）

<社会活動>

神戸市市民福祉調査委員会小委員会委員、大阪府社会福祉審議会専門委員、伊丹市福祉対策審議会地域福祉部会委員、など自治体や社協の委員を歴任。

現在は、郡上市行政改革推進審議会委員、名古屋市東区社会福祉協議会評議員、名古屋市東区地域福祉活動計画策定委員、きょうと農福連携センター付アドバイザー、社会福祉法人ひかり福祉会評議員、長久手市社会福祉協議会評議員、長久手市障がい者自立支援協議会「就労支援モデル開発プロジェクト」アドバイザー、金城学院大学生活協同組合理事 など

<著書>

- ・「コミュニティとの関係からうまれるしごとづくり」牧里毎治監修、川村暁雄、川本健太郎、柴田学、武田丈編『これからの社会的企業に求められるものは何か』ミネルヴァ書房、2015年
- ・「地域循環型福祉経済の中の「地域住民」——地域福祉の政策化の議論に重ねて」伊藤葉子、川村岳人、中田雅美、橋川健祐、三好禎之編『新しい地域福祉の「かたち」をつくる - 「福祉コミュニティ」概念に 基づく政策・実践の統合』ミネルヴァ書房、2024年10月など



つながりは、
多ければいいのか？

今日お伝えしたいこと

× 「（単に）つながりを増やしましょう」

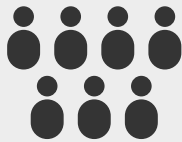
○ どんなつながりを、どうつくるか

いま、地域で起きていること

数字でみる孤独・孤立

変遷する家族の形

＊下段の数字は、1世帯あたりの人数



サザエさん一家
三世代がひとつ屋根の下

1970年（昭和45年）

3.45人



クレヨンしんちゃん一家
親と子だけの核家族

1995年（平成7年）

2.85人



？
ひとりで暮らす

2025年（令和7年）

2.15人

出典：総務省「令和7年国勢調査 人口速報集計結果」

数字で見えてみると

65歳以上の方がいる世帯に占める割合

三世帯世帯 50.1% → 7.0% 1980年 → 2023年

ひとり暮らし世帯 10.7% → 31.7% 同上

人口は300万人減ったのに、世帯の数は129万世帯 増えた

2020年 → 2025年。人が減っているのに、暮らしの単位はばらけて増えている。

出典：内閣府「令和7年版高齢社会白書」（厚生労働省「国民生活基礎調査」による）／総務省「令和7年国勢調査 人口速報集計結果」

19,188人

令和7年の自殺者数

1978年の統計開始以降、
初めて2万人を下回り、過去最少

538人

そのうち、小中高生

過去最多

全体は、減っている。それでも、子どもは過去最多。

約146万人

15～64歳で、ひきこもり状態にある人

出典：厚生労働省自殺対策推進室・警察庁生活安全局生活安全企画課「令和7年中における自殺の状況」（令和8年3月27日公表）
内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」（2022年11月調べ）

背景～薄れる3つの縁～



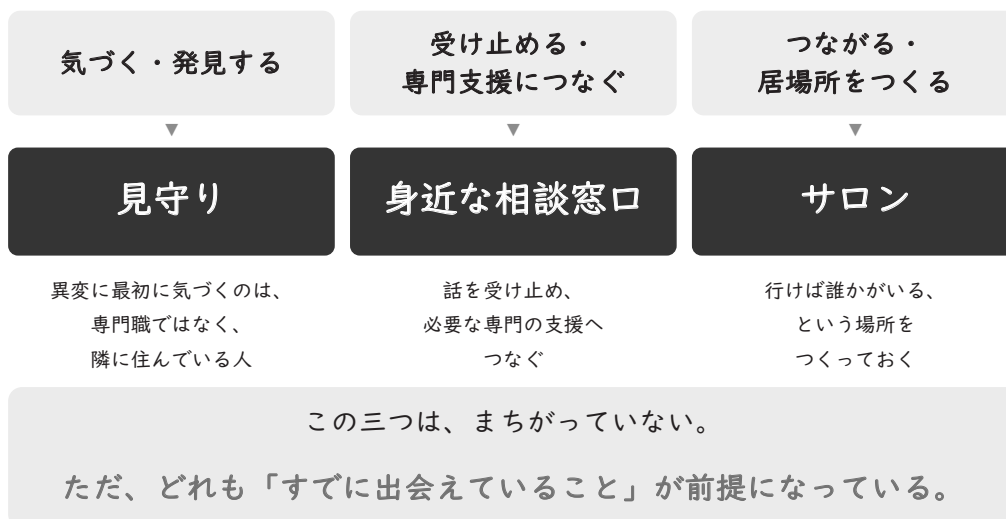
出典：内閣府 孤独・孤立対策推進室「孤独・孤立対策重点計画の策定に向けて」（令和6年4月19日 孤独・孤立対策推進本部 資料3）をもとに作成

2 地域福祉の取り組みは？

これまでのやり方だけでは足りない？

これまでの地域福祉の取り組み

ひとつの流れではなく、三つの働きかけで支えてきた



「助けて」が言えない人たちがいる

もしもある人の援助希求能力が乏しいとするならば、そこにはそうなるだけの理由がある。その人は、内心、助けを求める気持ちがありつつも、それによって偏見と恥辱的な扱いに曝され、コミュニティから排除され孤立するのを恐れてはいないだろうか。あるいは、成育歴上の逆境的体験のせいで、「世界は危険と悪意に満ちている」「自分には助けてもらうほどの価値はない」「楽になったり幸せになったりしてはいけない」と思い込んではいないだろうか。だとすれば、彼らは援助を求めない。こちらから手を差し伸べても、拒絶されるのは当然だ。それどころか、みずから助けを求めておきながら、突然、翻意して背を向けることさえあるだろう。

そもそも、誰かに助けを求めるという行為は無防備かつ危険であり、時に屈辱的だ。・・・（略）・・・」（松本2019:1-2）

「早期発見」は、誰の言葉か

「アウトリーチによって期待される『早期発見、早期対応』という言葉は学校や社会の側に立った言葉であり、関係者による家庭訪問への拒否的反応が多いことでもわかるように、『発見されたくない』とおもっている当事者は少なくありません。そういう人たちにとって、この言葉は恐怖でしかありません」（丸山2020:104）

届かないのは、熱意が足りないからではない。

見守り・相談・サロン。どれも大切な働きです。それでも届かない人がいる。

「ひとりだから、さみしい」だけでもない

「望まない孤独」という考え方

望んで、ひとりである

自分で選んだ静けさ。
→問題ではない。

望まない孤独

頼りたいのに、頼れない。
話したいのに、話せない。

孤独は、まわりに人がいるかどうかとは関係なく起こる

孤独感が「しばしばある・常にある」と答えた人の割合（全体は 4.8%）

会社に勤めている人
5.4%

学生・生徒
6.4%

20代
7.1%

70代
2.7%

出典：孤独・孤立対策推進本部「孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画」（令和6年6月11日、令和7年5月27日一部改定）／内閣官房「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和5年）」（人々のつながりに関する基礎調査、令和6年3月29日公表）

3 興味深い取り組み

一見同じけどなにが違う？

「かかわりしろ」を残す

長野県上田市「やどかりハウス」の食事会で

9:00
集合 手伝いたい人

11:00
集合 食べたい人

すると、9時に来る人のほうが、多い

「助けられるだけの人」には、なりたくない

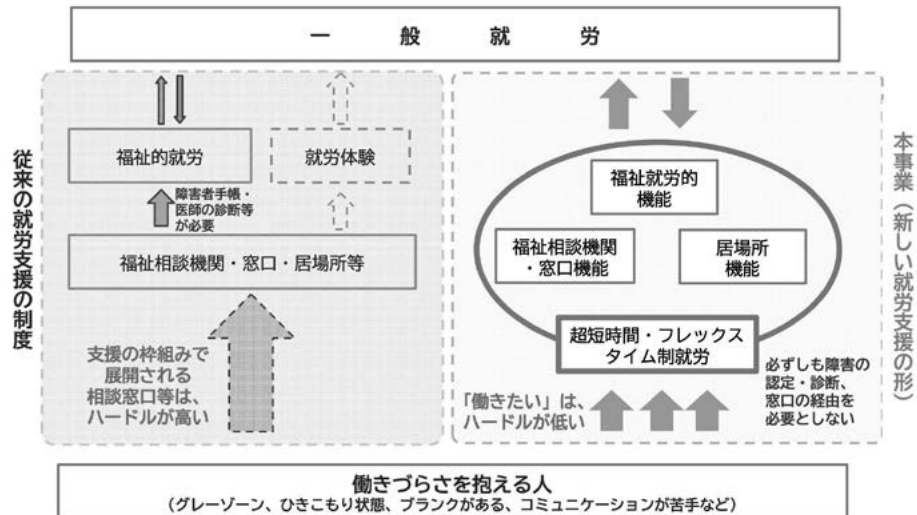
支える側・支えられる側を、こちらで決めてしまわない。
関わる「余地」＝「かかわりしろ」を、残しておく。

（出典）長野県上田市 NPO法人場作りネット／「やどかりハウス」（ゲストハウス犀の角との協働） 元島 生 副理事長の報告より
孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 令和6年度 第2回シンポジウム

長久手市の新しい取り組み

～一步を踏み出す機会を地域の事業者の皆様と一緒に創っていく～

03 従来の就労支援の制度と本事業の相違点



出典：金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科 横川健祐准教授 作成資料

(出典) 内閣府「第6回 孤独・孤立対策の在り方に関する有識者会議」令和8年3月5日(木) 長久手市資料より

「一步」のきっかけを支えたみなさん

働きづらさを抱える人が、身近な場所で短時間、短期間から働いてみることを通じて社会参加のきっかけをつくることを目的とした就労支援モデル開発プロジェクトを立ち上げ、令和6年度に3名が市

内の協力事業者で働き、一步を踏み出しました。将来的には、事業者と行政と協働による就労支援プラットフォームをつくり、働きづらさを抱える人が多様に働ける社会に向けて取組を進めます。

「一步」を踏み出したみなさん

(合同) AYAKA ASSOCIATION まちの台所「風と虹」／飲食業



関根さん・田中さん
彼が、デザート作りが得意であることを知り、お店でシュークリームを作るイベントを実施しました。普段は1人で作っているけど、多くの人と一緒に作る楽しさを体感してもらえました。

心がけたこと

本人のペースに合わせて、話をし、お互いの理解を深めていきました。話をする中で、仕事の量や内容も工夫していきました。

人とよく話せるようになり次のチャレンジへ！

働いた Kさんより

新しいことにチャレンジするときには、毎回嫌じゃないか聞いてくれて、安心して働くことができ、人とよく話せるようになりました。バイトの面接が苦手だったので、事前に自分のことを知っている場所で働くことができたこともよかったです。バイトへのハードルも下がりました。



(一社) 長久手アグサが倶楽部／農業



成瀬さん
Tさんが作業途中にスマートフォンで田園風景の写真を撮っていたのが印象的でした。働く場所として新鮮だったのだろうと思います。

心がけたこと

体調面で無理しないようにすること、作業がうまくできなくても気にすることがないように、少しずつ、ゆっくりと進めました。次に向けた一歩になればいいな、という気持ちで接しました。

自分に合った仕事に出会えました

働いた Tさんより

体を動かす仕事は自分に合っているようで、農業をもっとやってみたいという気持ちになり、自宅でも、プランターで野菜づくりに挑戦しています。一緒に働く人が「恐くないから大丈夫」と思えるようになってからは楽しめました。ステップアップに向け、この体験はとても効果的だと思います。



(株) トピラmemene balloon／バルーン制作



長崎さん
とても手先が器用な方でした。バルーン制作もどんどんコツをつかみ、プレゼント用のバルーン的设计と一緒に考え、サンプルづくりから制作まで取り組んでいただきました。

心がけたこと

はじめは、とても緊張した様子でしたが、雑談をすることで徐々にほぐれていきました。とても真面目で、仕事もどんどん覚えてくれました。

もっと働けるかも、と自信につながりました

働いた Nさんより

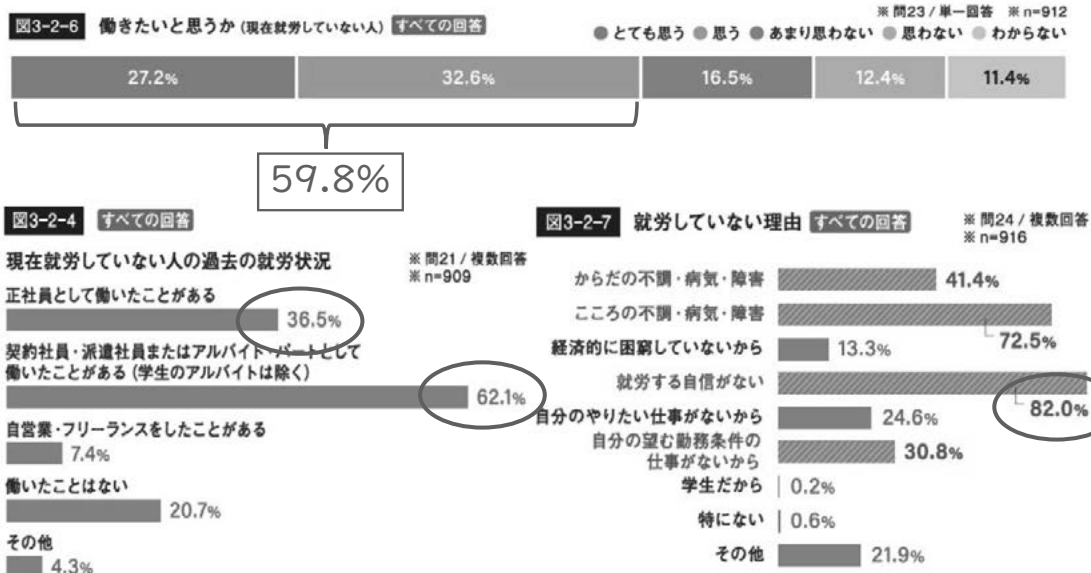
はじめは1週間に1時間でも体力的に厳しいと思いましたが、実際は短く感じ、もう少し長く働くことができるかもと感じました。まずは働いてみて、その先の働き方を考え、選択できることがよいと思います。市役所の方などのフォローもあり安心して働くことができました。



3名と事業者のみなさんは、今でも関わりが続いています！

(出典) 内閣府「第6回 孤独・孤立対策の在り方に関する有識者会議」令和8年3月5日(木) 長久手市資料より

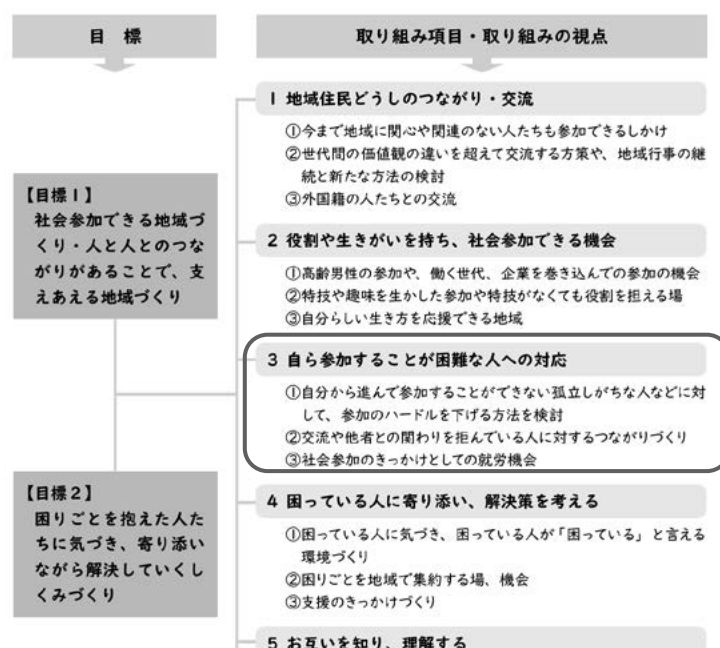
地域社会や働く環境を変えていくことが必要



（出典）ひきこもり白書2021,p57より

19

東区の第5次地域福祉活動計画では



（出典）第5次東区地域福祉活動計画より

4 押さえておきたい視点

これまでと少しやり方を変えてみる

「あなた」と呼ぶか、「それ」と呼ぶか

マルティン・ブーバー『我と汝』（1923年）の考え方から

われ — それ

相手を、分類し、把握し、
取り扱う関係。

制度も支援も、
これなしには動きません。

われ — なんじ

相手を、かけがえのない
一人として、向かい合う関係。

数えることのできない
関係です。

どちらかを選ぶ、という話ではありません

ブーバー自身、あらゆる「なんじ」は、いつか「それ」になると述べている。
ずっと向かい合い続けることはできない。それでも、時おり出会い直せるかどうか。

「みんな同じ」になることではない

ハンナ・アーレント『人間の条件』（1958年）の「複数性」から

人は、平等である。けれど、同一ではない。

だとすれば、目指すべき地域は——

× 住民がみな、同じ考えを持っている地域

○ 考えの違う人、暮らし方の違う人、地域活動に出てこない人、
行政に批判的な人がいたまま、それでも同じ地域の一員として認められている

「地域共生社会」は、みんなが同じになる社会ではない

「同じ人とはばかり」も、孤立のかたち

2種類の「つながり」

結束型

・・・似た人どうしのつながり
安心できる。強い。あたたかい。
地域を支えてきた力です。

橋渡し型

・・・違う人とのつながり
世代・立場・仕事の違う人と
つながる。世界が広がります。

つながりが濃くなるほど、世界は狭くなることもある

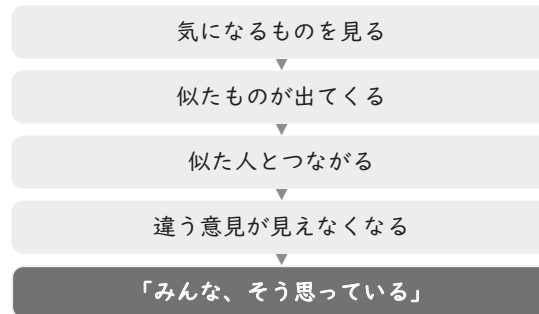
どちらも必要です。いま足りなくなっているのは、右のほう？

本日の題にある「多様なつながり」をつくっていくことが大事

※ 結束型／橋渡し型の区別は、ロバート・パットナム『孤独なボウリング』（2000年）より

居心地がいい。でも、違う人がいない

「エコーチェンバー」と呼ばれる現象



つながりは、強い。でも、世界は、狭い。

同じことは、サロンなどでも起こりうる？

いつも同じ顔ぶれて、同じ話をして、うなずき合う。心地よい。でも、そこに違う人はいない。

「専門性」だけではなく、「関係性」を



専門性

医療・福祉の専門職、施設、社協、行政

関係性

地域住民、ボランティア、企業、商店

橋渡し型のつながりは、
「関係性」の側からしか
生まれない。

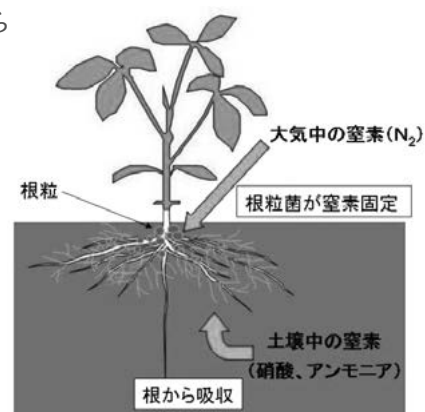
専門職だけでは、地域は変わらない。
だからこそ、みなさん（当事者の方も）の出番がある。

5 まとめ

自然に学ぶ —— 違うまま、支えあう

土の中で起きていること

現在行っている「自然栽培」の取り組みから



菌 → 植物へ
水分と養分をとどける

植物 → 菌へ
光合成でつくった糖をわたす

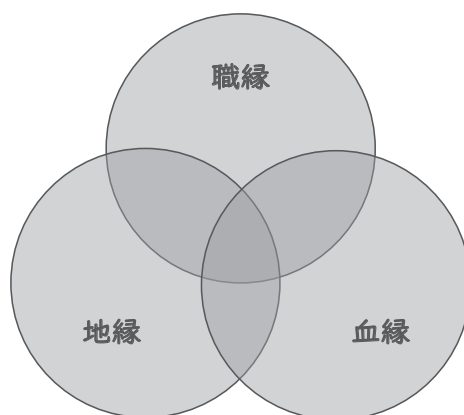
違う生きものだから、支え合える

*右図：<https://www.akita-pu.ac.jp/oshirase/oshirase2007/505> より

共生とは、同じになることではなく
違うまま、支えあうこと

重なり合わせる3つの縁

細くなった縁を、元に戻すことは難しい。



でも、
重ね直すことはできる。

重なったところに、
「かかわりしろ」が
生まれる。

ひとつの縁が切れても、他の縁が残っていれば、
その人は地域から孤立しない

今日、お伝えしたかったこと

① つながりは、多さよりも「多様さ」

② 共生とは、同じになることではなく、違うまま
支えあうこと

③ 支える側・支えられる側を、こちらで決めて
しまわない

「ありがとう」は、言うよりも、言われたい

持ち帰っていただきたい、3つの問い

～ご自身の地域や取り組みのことを思い浮かべながら～

1 どこに、「違う人」が入ってくる隙間があるだろう
世代・立場・仕事の違う人が、混ざれる場面はどこか

2 どこに、「来なくてもいい」余白があるだろう
参加しない人が、責められずにいられるか

3 どこに、「かわりしろ」があるだろう
手伝う側としても入れる余地が、残されているか

どれも、今日すぐに答えの出る問いではありません

<参考・引用文献>

- 一般社団法人ひきこもりUX会議（2021）『ひきこもり白書 2021』.
- 丸山康彦（2020）「体験的不登校・ひきこもり論の現在地」林恭子・斎藤環編『いまこそ語ろう、それぞれのひきこもり』日本評論社,100-106.
- 松本俊彦（2019）「「助けて」が言えない SOSを出さない人に支援者は何ができるか」日本評論社.
- マルティン・ブーバー著、野口啓祐訳（2021）『我と汝』講談社.
- ハンナ・アーレント著、志水速雄訳（1994）『人間の条件』筑摩書房.
- ロバート・D. パットナム著、柴内康文訳（2006）『孤独なボウリング』柏書房.



大野木学区

子ども食堂

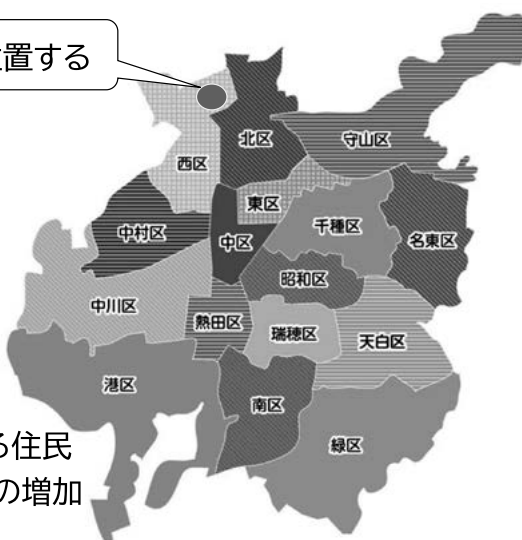
しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

西区の北東に位置する

約4600世帯
約10000人
古くから住んでいる住民
子育て世代の転入の増加



1000年以上の
歴史をもつ
大乃伎神社



大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

——令和5年2月 子ども食堂実施の構想

大野木っ子食堂

居心地の良い
居場所づくり

学区の人材発掘
新しいネットワー
クの構築

災害時の
炊き出しの
練習

楽しくないと続かない！



大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

——令和5年8月 大野木っ子食堂 開始



子ども食堂運営スタッフ

- ・地域福祉推進協議会
 - ・区政委員
 - ・民生委員
 - ・主任児童委員
- ・PTA OBの有志
- ・高齢者のボランティア
- ・他学区の協力

偶然の出会い
人とのつながり

大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

地域・企業との連携



地域の企業

食材の提供

マルハンさん

地域を盛り上げるために
活動しているNPO法人調理・片付けに参加
子ども向けのイベントも実施

大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

利用者から担い手へ成長

昨年まで

- ・ 中学生
- ・ 弟妹を連れて
子ども食堂を利用

現在

- ・ 高校生
- ・ 今年4月からスタッフ
として活動
- ・ 中学生の妹が弟妹を
連れてきて、子ども食堂
を利用



大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

利用者との交流



利用者→子ども食堂

- ・三世代で利用する方もいる
- ・第四日曜日に家族で集まる
子ども食堂の日＝家庭のイベント

利用者→学区

- コミュニティセンターで実施
- 場所の確認
- 避難場所であることを再確認

大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

課題と今後の展望

課題

- 利用者の固定化
- 申し込み方法の再考
→QRコード
直接申し込み



今後の展望

- ☆ 誰でも来やすい
子ども食堂へ
- ☆ スタッフ・利用者ともに
学区の行事に参加協力



大野木学区

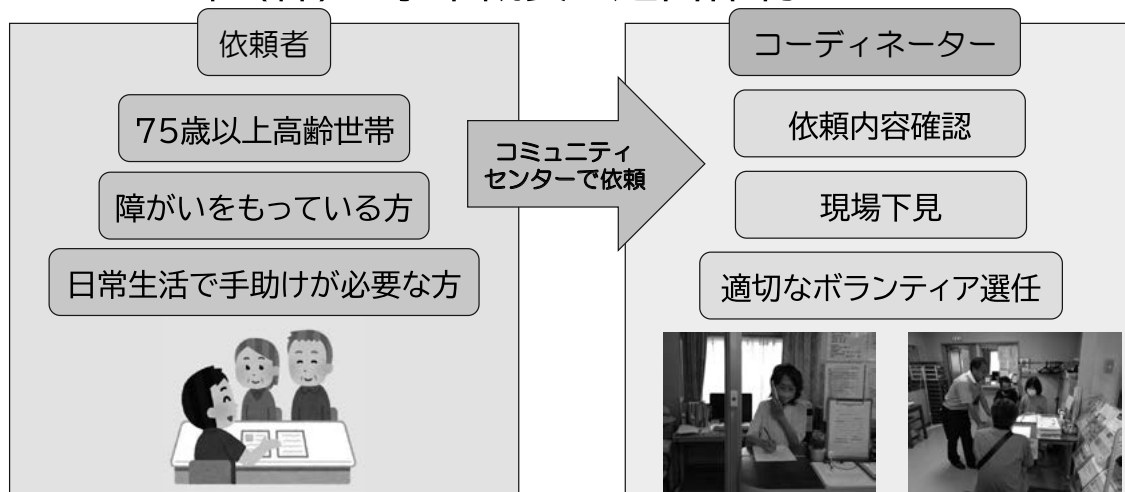
子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

しんせん組(絆)の事業概要と運営体制



大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

活動実績



草刈り



古いエレクトーンの搬出

他にも・・・

- ・粗大ごみの搬出時の手伝い
- ・側溝に落ちた20kgブロックの移動

など



灯油の購入・運搬の手伝い

大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

課題と今後の展望

課題

- 認知件数が想定より少ない
→周知活動が必要
- 民生委員への依頼が多く、
負担が大きい
→学区全体を巻き込んだボラ
ンティア組織の構築

今後の展望

- ☆子ども食堂からボランティア
登録が増加
- ☆長期的視点で活性化を目指す

大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

支えあい活動連絡会議

年3回開催

地域住民も参加する開かれた会議

【参加者】



神社の氏子

少年補導員

子ども食堂スタッフ

地域の新聞販売店
店主ふれあいサロンの
机並べなどの
会場設営が大変
→手伝いに参加

大野木学区

子ども食堂

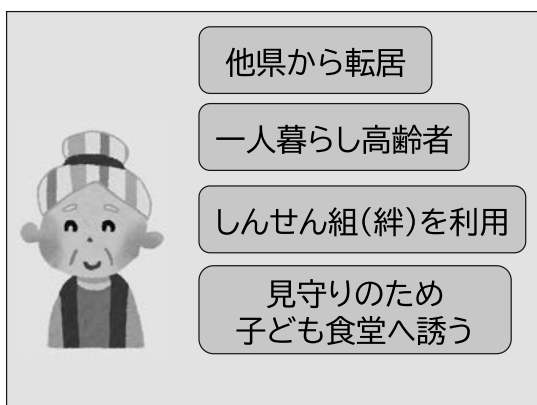
しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

新たなつながり・協力関係

会議の場や、利用者とも新たなつながりや協力関係を生む



大野木学区

子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

今後の支えあい事業について

現在は【種まき期】



大野木学区

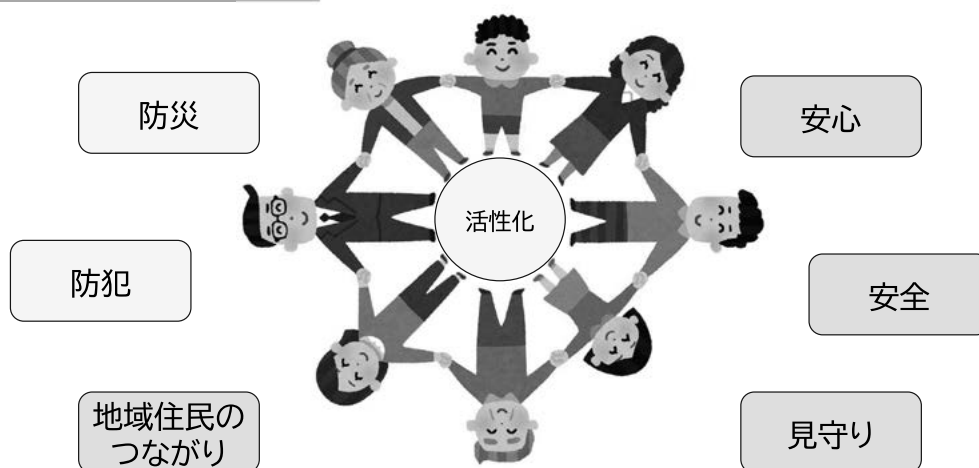
子ども食堂

しんせん組(絆)

支えあい活動

まとめ

絆のネットワーク



サロン活動を通じた地域の多様な つながり作りについて



緑学区地域福祉推進協議会 会長 伊藤 哲男

発表内容

- ・ 緑学区の紹介
- ・ ふれあい・いきいきサロン「みんなの広場」を始めたきっかけ
- ・ サロンの実施状況
- ・ 困りごと相談（地域支えあい事業）
- ・ サロン活動から地域へのつながり
- ・ サロン活動の効果・地域における役割
- ・ 今後の課題・検討事項

緑学区の紹介

緑区



・人口 7,308人 (R8.4.1)

- ・高齢者 1,798人
- ・高齢化率 24.6%
- ・一人暮らし高齢者 244人
- ・高齢者のみ世帯 92世帯

鳴海八幡宮を囲む旧集落の前之輪、
区画整理で整備された高台の新興住宅
地の青山、
国道1号沿いの住工混在の地域、
産業道路西側の工場の多い汐田など
多様な地域
最近では分譲住宅が増加

学区内にスーパーがなく、買い物が不便

緑学区の組織図

緑学区連絡協議会

(15町内会)

みどり中央(第1A)
みどり第一(第1B)
前之輪(第2)
みどり第三(第3A)
タウン石堀山(第3B)
みどり第四(第4)
みどり三山(第5A)
みんなの青山(第5B)
みどり青山(第6)
みどりSAT(第7)
京町西
京町東
諏訪山
千鳥ヶ丘
汐田連合

緑学区福祉推進協議会

区政協力委員会

老人クラブ
(みどりなごやか緑)

緑学区福祉ボランティア

- ・子育てひろば
- ・高齢者ふれあい給食会
- ・みんなの広場
- ・子ども食堂『フレンドリー』
- ・地域支えあい事業

保健環境委員会

民生児童委員協議会

子ども会
(みどり子ども会)

スポーツ推進委員

保護司会

消防団

緑小PTA

緑コミセン運営委員会

緑学区福祉推進協議会の取組み（12年間）

名 称	開催頻度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
子育てひろば	毎月1回	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○
高齢者ふれあい給食会	"	○	○	○	○	○	×	△	△	○	○	○	○
	"		○	○	○	○	×	△	△	○			
子ども食堂『フレンドリー』	"										○	○	○
みんなの広場（共生型サロン）	毎月2回									○	○	○	○
囲碁将棋広場	毎月1回					○	△	△	○				
友愛サロン（主催：老人クラブ）	"		○	○	○	○	△	△	○				
児童と高齢者のふれあいのつどい	"	○	○	○	○	○	×	×					
認知症サポーター養成講座	年1回			○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
健康講演会等（保健環境委員会）	年1回	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
緑コミセン祭	1年おき			○		○		△	○		○		○
もちつき大会	年1回				○	○	×	×	○	○	○	○	○
やきいも大会	年1回								○	○	○	○	○
地域支えあい事業 （緑学区地域支えあい活動連絡会議）	通年									9月から ○	○	○	○
	年3回									○	○		
緑学区地域支援ネットワーク運営協議会 （ふれあいネットワーク活動）	年3回			ふれあい 連絡会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○

緑学区福祉推進協議会の取組み（令和8年度）

名 称	実施主体	開催頻度	開催時期	開催場所	備考
子育てひろば	推進協（緑学区福祉ボランティア）	毎月1回	第2（金）	緑コミセン	
高齢者ふれあい給食会	推進協（緑学区福祉ボランティア）	毎月1回	第3（木）	緑コミセン	
子ども食堂『フレンドリー』	推進協（緑学区福祉ボランティア）	毎月1回	第4（日）	緑コミセン	新規
みんなの広場（共生型サロン）	推進協（緑学区福祉ボランティア）	毎月2回	第2（木）第4（日）	緑コミセン	
認知症サポーター養成講座	推進協（講師：南部いきいき支援センター）	年1回	2月ごろ	緑コミセン	
フレイル予防講演会	保健環境委員会＋推進協	年1回	9月17日（木）	緑コミセン	共催
緑コミセン祭	緑学区連絡協議会・推進協・コミセン運営委員会	1年おき	11月7・8日（土日）	緑コミセン	共催
もちつき大会	推進協（協力：緑学区連絡協議会）	年1回	12月13日（日）	緑小学校	
やきいも大会	推進協（協力：緑学区連絡協議会）	年1回	2月ごろ	緑小学校	
地域支えあい事業 （緑学区地域支えあい活動連絡会議）	推進協（緑学区福祉ボランティア）	通年	困りごと相談 毎週（木）（日）	緑コミセン	
	ご近所ボラ＋区政、民生、保健環境、緑区社協、南部いきいき支援センター等	年3回	① 6/18（木） ② 10/15（木） ③ 2月ごろ	緑コミセン	
緑学区地域支援ネットワーク運営協議会 （ふれあいネットワーク活動）	推進協＋新聞販売店、南医療生協、区役所福祉課、緑区社協、南部いきいき支援センター、緑小 等	年3回		緑コミセン	

チラシ

(上部)

緑学区の皆さん

「みんなの広場」(ふれあい・いきいきサロン) においでください。

緑学区にお住まいの方なら、どなたでも参加できます。

参加費 無料 (お茶・お菓子は用意します。)

予約不要・自由参加・出入自由

毎月2回やってます。第2(木)・第4(日) 9:30~11:30

緑コミュニティセンター 1F和室・2F会議室 貸切

緑区鳴海町字前之輪106 電話 623-9600

1F おしゃべり、囲碁・将棋、麻雀、かるた・トランプ・オセロなど

2F おしゃべり、ポッチャ・歌 など

ロビー 困りごと相談(毎回)・スマホ相談(第4(日)のみ)

気軽に集まって、おしゃべりやゲームなどを楽しみましょう。

主 催 緑学区福祉推進協議会

連絡先 伊藤哲男

(この事業は、緑区社会福祉協議会の助成事業です。)

回覧



チラシ

(下部)

ふれあい・いきいきサロンって？

地域住民の皆さんが、身近な場所に集まって気軽に楽しくふれあいを深め、交流する活動で、地域の「お茶の間」「たまり場」とも言われています。

活動内容は、みなでおしゃべりを楽しんだり、体操をしたり、ゲームをしたり、物づくりを行うなど、サロンによって様々ですが、共通しているのは参加者みなで交流しながら、和気あいあい楽しむ活動であることです。

ふれあい・いきいきサロンの効果

- ①地域での仲間づくりにつながります。
- ②様々な情報を得ることができます。
- ③見守りや課題発見の場になります。
- ④介護予防や認知症予防につながります。
- ⑤誰もが活躍できる場です。

令和 8年度 開催予定日

月	第2(木)	第4(日)
4	9日	26日
5	14日	24日
6	11日	28日
7	9日	26日
8	--	23日
9	10日	27日
10	8日	25日
11	12日	29日*
12	10日	20日*
1	14日	24日
2	11日	28日
3	11日	28日

みんなの広場 開催状況

年度/月		参加者	内65～	おしゃべり	ポッチャ	演奏・歌	囲碁・将棋・ トランプ・オセロ	健康麻雀	スマホ相談	健康チェック	困りごと 相談
5年度 23回	合計	497	409	○	○	○	○				○
	平均	21.6	17.8								
6年度 23回	合計	457	384	○	○	○	○	12月から○			○
	平均	19.7	16.7								
7年度 23回	合計	531	440	○	○		○	○			○
	平均	23.1	19.1						1月から 第4(日)○	3月から 第4(日)○	
8 年4月	9(木)	26	24	○	○	○	○	○			○
	26(日)	27	19	○	○		○	○	○	○	○
5月	14(木)	22	20	○	○	○	○	○			○
	24(日)	25	17	○	○	○	○	○	○		○
6月	11(木)	26	23	○	○	○	○	○			○
	28(日)	26	19	○	○	○	○	○		○	○
7月	9(木)	27	24	○	○	○	○	○			○
	26(日)	32	22	○	○	○	○	○	○	○	○
8月											
	23(日)	25	21	○	○	○	○	○			○

みどりだより 第54号
令和6年7月

みんなの広場

昨年4月から始めた共生型のいきいきサロン、月2回開催。ポッチャや将棋を楽しんでいます。ポッチャはボールを投げ合うゲームですが、ルールも簡単で誰でもすぐに出来ますよ。ボールを投げるたびに歓声が上がります。一度、覗いてみて下さい。





ポッチャ



困りごと相談窓口

スマホ相談会



麻雀
オセロ
将棋



困りごと相談 (地域支えあい事業)

緑学区地域支えあい事業開始後の生活支援状況(令和5年9月～8年3月)

8.4.12

月	相談件数	実施件数(ぶつ)	ゴミ出し	外出支援	草取・伐採	小修繕	清掃	家具移動	話し相手	その他支援
5年度										
9～3月	33	33(53)	10	1	11	3	1	3	1	3
6年度										
4～3月	50	54(97)	11		30	4	4	2		3
7年度										
4月	6	5(6)			3					2
5月	6	5(7)			2		1			2
6月	4	4(17)			2		1			1
7月	3	3(4)	1		2					
8月	6	8(10)	2		4					2
9月	4	5(10)			4			1		
10月	4	6(7)			5					1
11月	10	13(34)			6	1	2	1		3
12月	4	5(7)					2			3
1月	7	13(16)				1			1	11
2月	5	5(5)			1			1		3
3月	2	2(2)			1	1				
7年度累計	61	74(125)	3		30	3	6	3	1	28

5年度～累計 144 161(275) 24 1 71 10 11 8 2 34

サロン活動から地域へのつながり

- ・参加者が楽しいと口コミで広がる。
- ・参加者が仲良くなると老人クラブやふれあい給食会参加者も増える。
- ・サロンスタッフ自身やスタッフの運営経験が学区全体のふれあいイベントなどでも活かされる。

サロン活動の効果・地域における役割

- 地域での世代を超えたふれあい・仲間づくり
- 高齢者の介護予防・認知症予防
- 高齢者の見守りの場
- 高齢者が生き生きと元気に

今後の課題・検討事項

- 推進協の活動を支える福祉ボラの募集・確保
- 住みよく元気なまち・仲良く助け合えるまち目指して、学区内の諸団体の連携強化

ご清聴ありがとうございました。

孤独・孤立防止につながる支援

～ネットワーク構築のための地域ケア会議の取り組み～

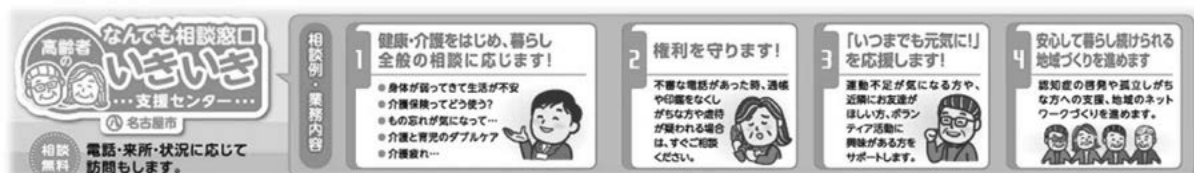
守山区西部いきいき支援センター

社会福祉士 中崎未来子
社会福祉士 伊藤友美



守山区マスコットキャラクター モリスちゃん

■いきいき支援センター



■守山区西部いきいき支援センター



■名古屋市守山区の概要

- 人口 175,126人
- 高齢者数 43,673 人
- 高齢化率 24.9%
(名古屋市高齢化率25.0%)

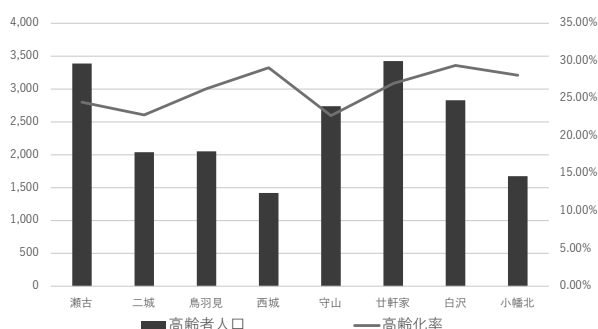
R8年4月1日時点



■守山区西部圏域

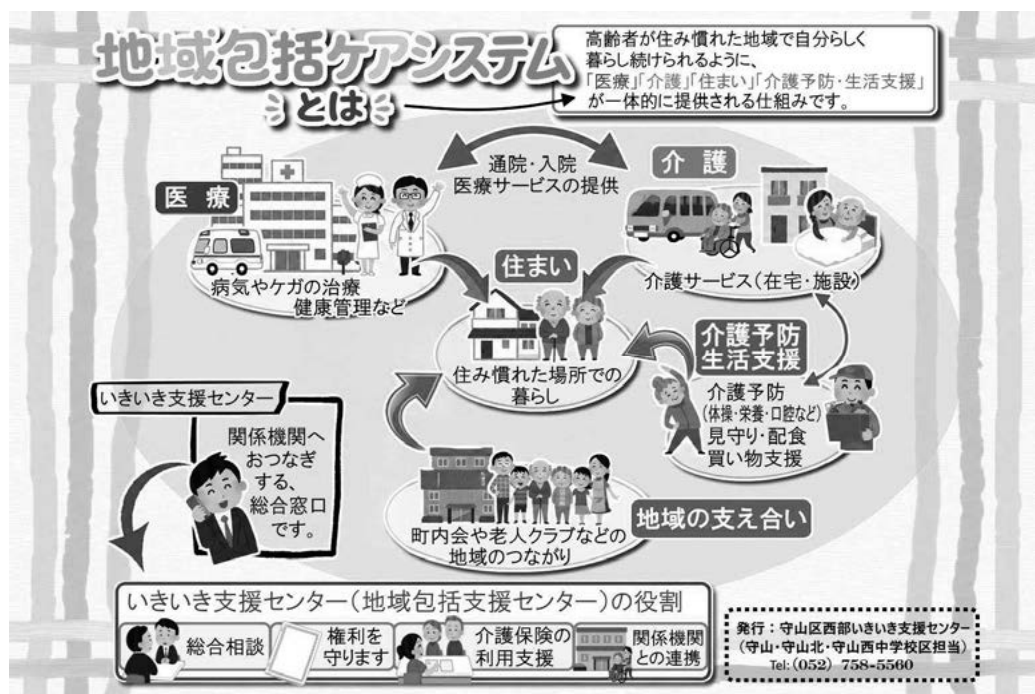
【担当小学校区】

- 瀬古区 ●二城学区 ●鳥羽見学区 ●西城学区
- 守山学区 ●甘軒家学区 ●白沢学区 ●小幡北学区



人口 75,760人
高齢者人口 19,571人
高齢化率 25.8%

R8年4月1日時点



■地域包括ケアシステムの深化の為に

- ・高齢化、つながりの希薄化
- ・地域包括ケアには「人のつながり」が不可欠
→しかし、地域のことを話す機会が少ない

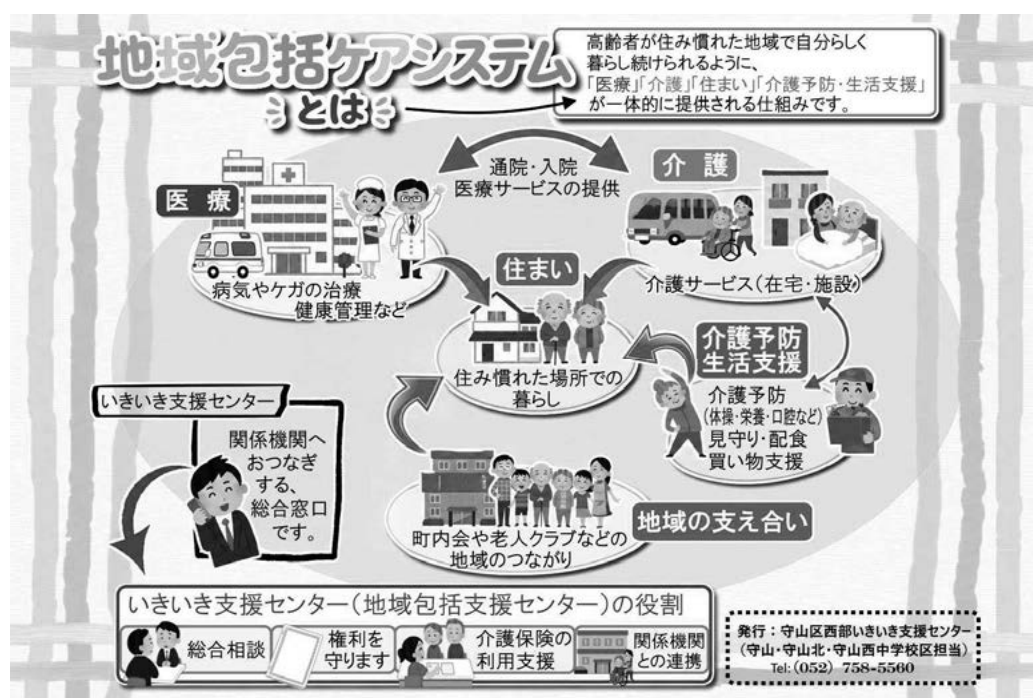


住民や関係機関が気軽につながり
相談や情報交換ができる場が必要



■ 地域ケア会議の開催を検討

- ・ 顔の見える関係づくり
- ・ 多職種間のネットワーク構築
- ・ 気づきや社会資源の情報共有



■地域ケア会議開催までの手順

- ①地域の特徴を把握
- ②内容検討
- ③参加者・会場の選定
- ④参加者への事前説明・目的の共有
- ⑤資料準備
- ⑥進行計画



■資源マップ作成を導入した理由

- 身近なテーマで円滑に交流するため
- 地域に関わる人が持つ“生きた情報”を集めるため
- 地図で可視化し共通認識とするため
- 把握していない多様な社会資源を共有するため
- 今後の地域づくりへ活用するため



■開催にあたって

心配だったこと

- ・様々な立場の人が参加する
- ・遠慮して意見が出ない
- ・準備をしなければと身構える
- ・時間が限られている
- ・個人情報取り扱いの不安
- ・「課題」を強調したくない
- ・議論の場ではない
- ・目的の理解不足
- ・地図作成だけにならないように

工夫したこと

- ・題材を工夫
- ・小グループ化、進行役配置
- ・特別な準備は不要
- ・時間配分、ワーク内容を考慮
- ・ワーク時のルールを提示
- ・依頼時と会議当日に目的を説明
- ・場所の確認だけでなく、その場で行われていることや交流の様子等についても共有

■地域ケア会議

【取り組み期間】 R5～R7年

【会場】 8小学校区ごとに開催

【開催時間】 1時間半

【ワークテーマ】 まちを見える化しよう



● 医療・福祉

診療所、歯科、薬局、介護保険事業所、障がい者事業所等

● 公共施設・集いの場

学校、保育園、公園、コミセン、交番、消防署、地域サロン、老人クラブ、集合住宅等

● 生活

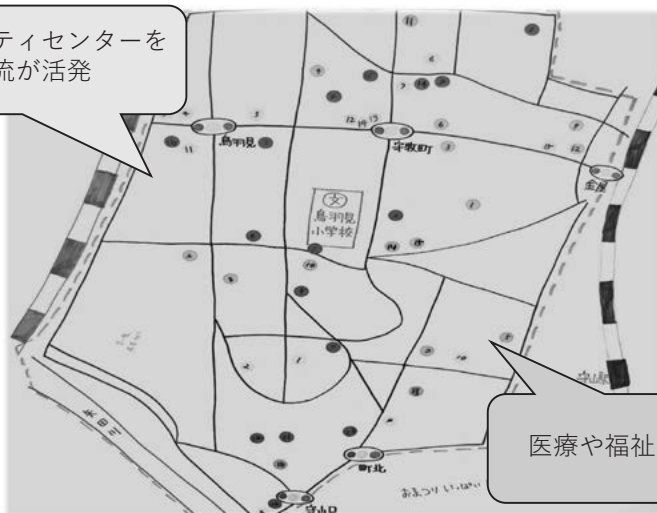
スーパー、コンビニ、ドラッグストア、銀行、郵便局、交通機関、新聞店
ガソリンスタンド、飲食店等

● その他



■鳥羽見学区地域ケア会議

公園やコミュニティセンターを中心
に多世代交流が活発



医療や福祉が豊富



■地域ケア勉強会

【日程】 R8年3月6日

【会場】 守山区役所講堂

【開催時間】 2時間

【参加者】 各学区地域ケア会議の参加者 70名程度

【内容】 金城学院大学看護学部教授による講義、グループワーク
地域ケア体制の構築

①地域ケア会議の成果（マップ作成）を活かし「地域診断」の
観点から課題を整理する。

②資源と課題を「見える化」する方法を学ぶ。



得られた**成果**

- ・多職種間の交流
- ・共通の地域理解
- ・今後の協働のきっかけ



見えてきた**課題**

- ・気軽に相談できる関係性の維持
- ・ネットワークの拡大
- ・相互の役割の把握

今後の**展開**

- ・継続的な会議の開催
- ・新たな関係者の参加促進
- ・テーマの検討

この取り組みは、どの地域でも広げられる



一緒に“つながりのある地域”を広げていきましょう！

ご清聴ありがとうございました。



Memo

Handwriting practice lines consisting of multiple sets of horizontal lines, each set containing a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line. The lines are arranged in two main sections: a larger section for general writing practice and a smaller section at the bottom right.



「地域支えあい事業」実施学区への感謝状贈呈のお知らせ

名古屋市及び名古屋市社会福祉協議会では、長年にわたる「地域支えあい事業」の実施を通して、地域における支えあい活動の推進に尽力されている方々に対して、長年のご尽力に感謝して感謝状の贈呈を行っています。

《令和8年度感謝状贈呈学区の紹介》

【市長感謝（10年以上） 贈呈学区一覧】（敬称略）

昭和区	御器所学区
熱田区	高蔵学区
中川区	八幡学区
南 区	桜学区
守山区	大森北学区
天白区	平針南学区

【名古屋市社会福祉協議会会長感謝（5年以上） 贈呈学区一覧】（敬称略）

港 区	南陽学区
-----	------

つながり・支えあおう

参加無料

会場定員 300名
オンライン受講可

地域福祉のすゝめ

世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく地域共生社会の実現を目指し、地域福祉の講演による気づきを得るとともに、地域での交流や困りごと解決に向けて活動されている方々からの実践報告を通じて具体的な課題解決や取り組みの手法を学びます。

地域福祉に関心のある皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日程

令和8年 **10月27日** (火)

13:30～16:00 (13:00開場)

会場

中区役所ホール

(中区栄4-1-8 中区役所地下2階)

※集合型とオンライン (YouTubeライブ) の併用で開催します

内容

**誰も取り残さないまちへ
～多様なつながりで支える地域福祉～**

基調講演

**「多様なつながりが生む孤独・
孤立防止への取り組み」**

金城学院大学 デザイン工学部 情報デザイン学科
准教授 橋川 健祐 氏

実践報告

● **地域支えあい活動 実践者**

西区大野木学区地域福祉推進協議会

会長 大塚 春行 氏・副会長 柴田 智一 氏

● **ふれあい・いきいきサロン活動 実践者**

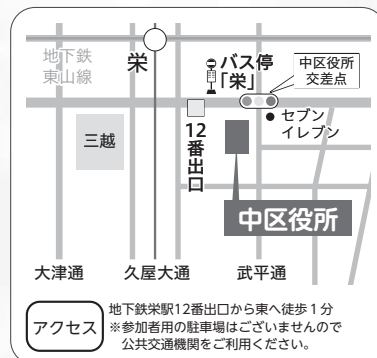
緑区緑学区地域福祉推進協議会

会長 伊藤 哲男 氏

● **孤独・孤立防止につながる支援 実践者**

守山区西部いきいき支援センター

社会福祉士 中崎 未来子 氏・社会福祉士 伊藤 友美 氏



金城学院大学
デザイン工学部 情報デザイン学科
准教授 橋川 健祐 氏

博士 (社会福祉学)・社会福祉士。
研究テーマは、過疎地域再生、地域
循環型福祉経済、コミュニティワーク、
資源開発 など。

現在、第5次東区地域福祉活動計画
策定委員、長久手市障がい者自立支援
協議会「就労支援モデル開発プロジェ
クト」アドバイザー、愛知県社会福祉
協議会「CSWの諸課題に関する検討
会議委員」などを務めている。

主催：名古屋市・社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

この事業の財源の一部として「名古屋市福祉基金 (地域福祉推進・子育て支援基金)」が使われています。

参加対象者

- ▶地域福祉活動（地域支えあい活動、ふれあい・いきいきサロン活動など）の実践者
- ▶これから地域福祉活動に参加してみたい方（勤労者など）
- ▶企業・商店・社会福祉法人・NPO法人・ボランティア団体・協同組合・大学・専門学校の皆さんなど

お申し込みについて

下記の参加申込書をFAX・郵送・Eメールのいずれかでお送りください。Eメールで申し込む場合はタイトルを「地域福祉のすゝめ申込」とし、参加申込書の内容を記載してください。
※参加申込書に記載された個人情報は、本件開催に関してのみ使用します。

こちらから
メールを
作成できます



参加ご希望の皆さまへ

- オンライン視聴希望の方には、参加申込書に記載いただいたEメールアドレスに受講、および資料ダウンロードに必要なURL等をお送りいたします。事前申込者に限り、終了後一定期間アーカイブ配信を視聴できます。
- 会場定員（300名）を超過するお申し込みがあった場合は抽選とし、参加いただけない場合のみご連絡します。

申込・問合せ先

社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会

〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17番1号 名古屋市総合社会福祉会館5階
(担当：地域福祉推進部／中島・野々部)

電話

052-911-3193

E-mail chiiki-s3@nagoya-shakyo.or.jp

FAX

052-917-0702

つながり・支えあおう 地域福祉のすゝめ

参加申込書

※オンライン受講希望の場合は記入欄に○を付け、Eメールアドレスを記入してください。

ふりがな 個人名	お住まいの区 または活動区	団体名・所属 ※団体等に所属の場合は記入	電話番号	オンライン 受講希望	E-mail ※オンライン参加の場合は必須
連絡担当者 ※団体から複数 参加の場合	車いす使用の方、手話通訳、要約筆記、介助等が必要な場合は、その旨ご記入ください。				

申込締切

令和8年10月9日（金）必着

Memo

Handwriting practice lines consisting of multiple sets of horizontal dashed lines on a solid background, spanning the width of the page.



M e m o

Handwriting practice lines consisting of multiple sets of horizontal lines, each set containing a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line. The lines are arranged in two main sections: a larger section at the top and a smaller section at the bottom.



M e m o

Handwriting practice lines consisting of multiple sets of horizontal dashed lines on a solid background, spanning the width of the page.





ひとに、ひたむきに。

**社会福祉法人
名古屋市社会福祉協議会**

（担当：地域福祉推進部）

〒462-8558

名古屋市北区清水四丁目 17-1 名古屋市総合社会福祉会館 5 階

TEL052-911-3193 FAX052-917-0702

名古屋市社協ホームページ <https://www.nagoya-shakyo.jp/>

この事業実施には「名古屋市福祉基金（地域推進・子育て支援基金）」が使われています。